# 年譜資料の構造化と可視化一森鷗外書入本『抽斎年譜』を例に一

Encoding and Visualization for Life Timeline: A Case Study of Chusai Nenpu

### 若手図書館員DH勉強会

市太佐知\*(人間文化研究機構) 鈴置怜子(東京大学情報システム部) 西口真梨奈(東京都立中央図書館)

福嶋彩乃(東京大学経済学図書館)星合耀子(国文学研究資料館)村田祐菜(国立国会図書館) 吉村雄太(国立国会図書館)\*著者の配列は五十音順

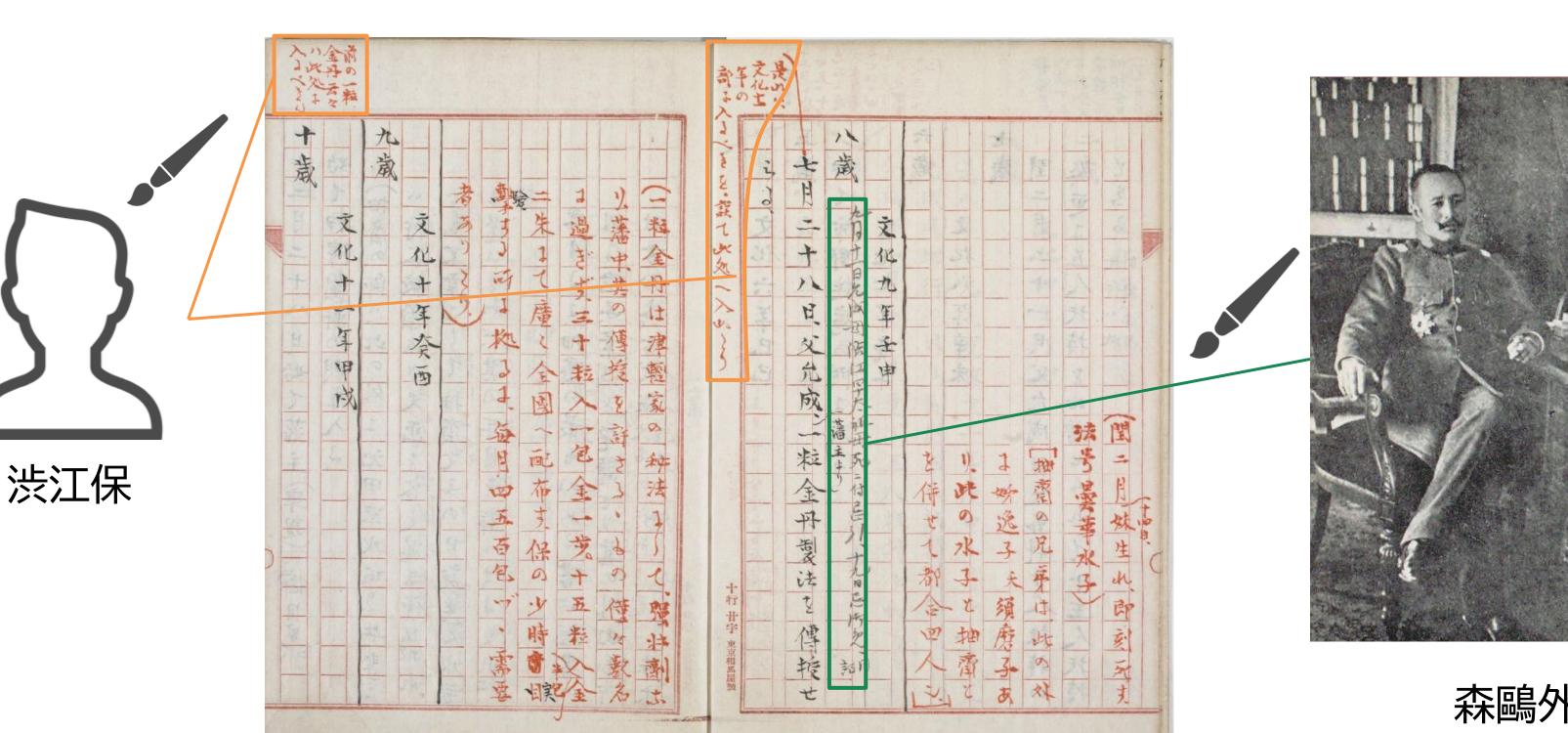
#### 『抽斎年譜』とは?

● 森鷗外が史伝『渋江抽斎』執筆に際し、抽斎の嗣子・渋江保に制作 を依頼した年譜資料

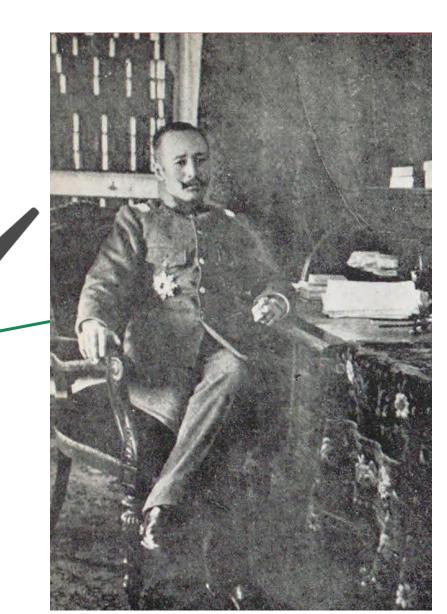
● 本文に対し様々な注が加えられている ✓制作者である
<u>渋江保自身の書き込み</u> ✓鷗外自筆の書入れ ✓注の位置(欄外、インデント) ✓朱筆·墨筆

→注の位置や朱筆/墨筆の別、書入れを行った人物の情報を記述 したい

● 史伝小説『渋江抽斎』は本資料に大きく依拠するとされる →『抽斎年譜』と『渋江抽斎』のテキストを対照し、年譜を典拠とし て執筆された箇所を可視化したい



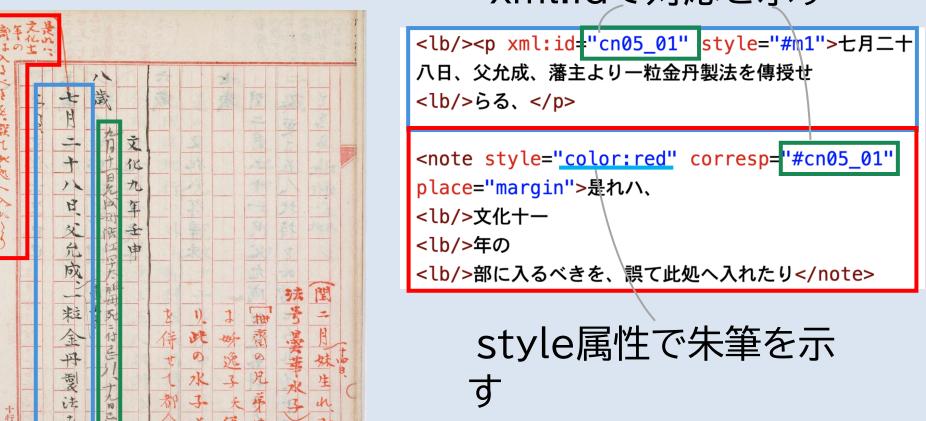
東京大学総合図書館所蔵『抽斎年譜』注1



森鷗外 注2

#### 注・書入れ

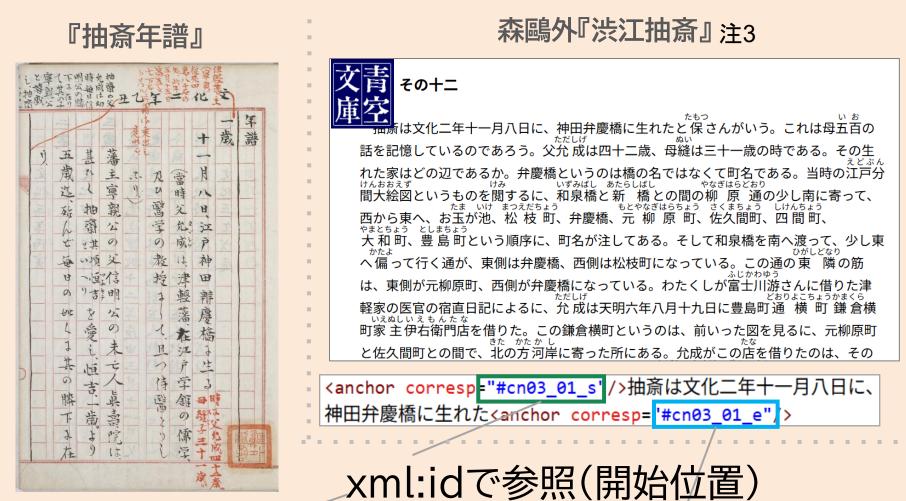
#### xml:idで対応を示す



鷗外による書入であることを示す

hand="#ougai">九月十一日允成母渋江早太祖母死二付忌引、十九日忌御免、日記</note>

## TEI 小説『渋江抽斎』との対応箇所



江戸神田辨慶橋に生る<anchor xml:id="cn03\_01\_e"/ xml:idで参照(終了位置)

# TEI本文と対応するIIIF画像



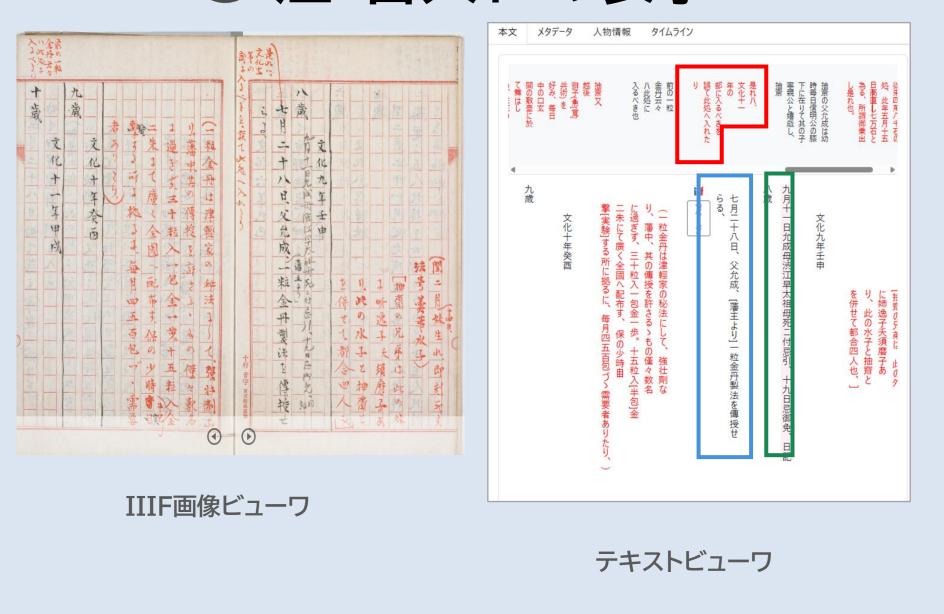
<text> (本文) xml:idで参照 <text> <body style="writing-mode\*vertical-rl"> <pb n="3" corresp="#zone\_005" facs="https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/</pre>

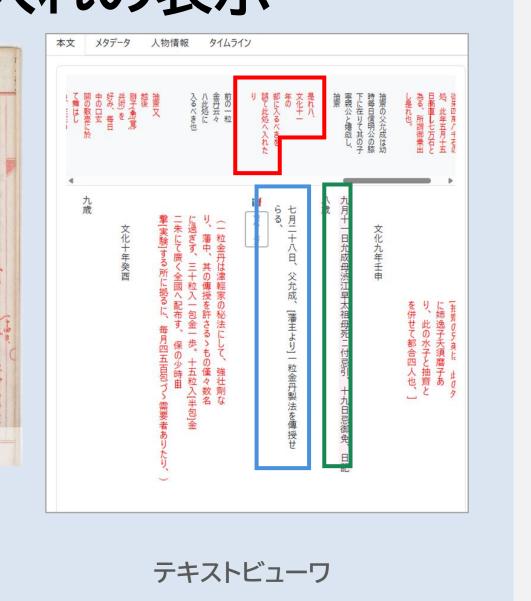
<head>年譜</head>

iiif-img/6981/0,0,2128,3308/full/0/default.jpg"/>

IIIF Image API のURL記法で半丁分の領域を指定

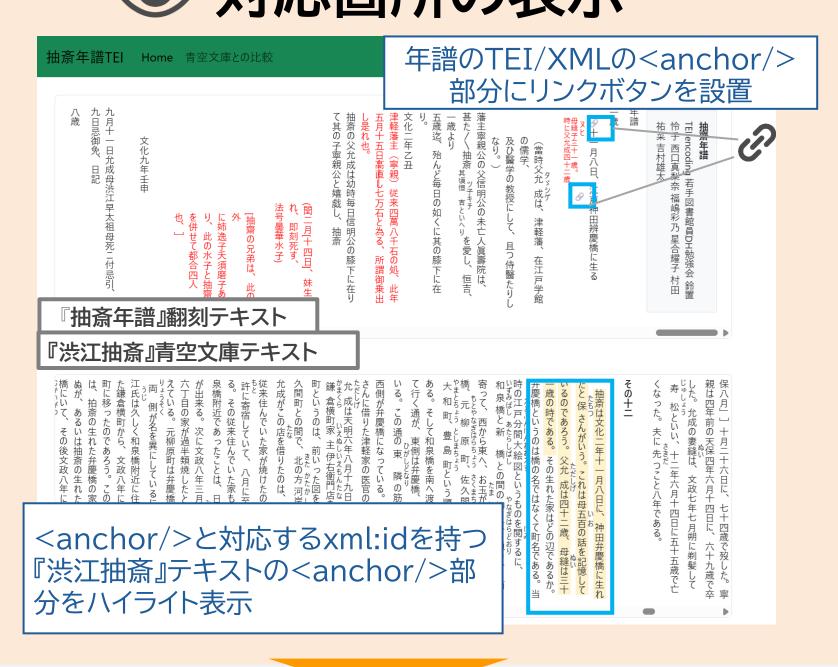
# ②注・書入れの表示



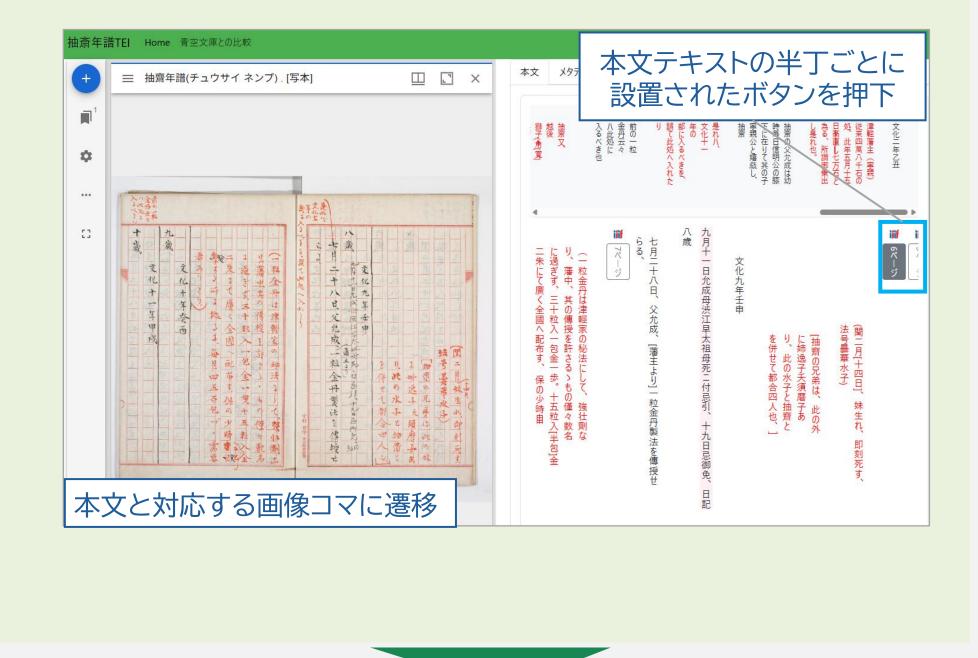


#### ② 対応箇所の表示

<anchor xml:id='cn03\_01\_s"/>十一月八日、

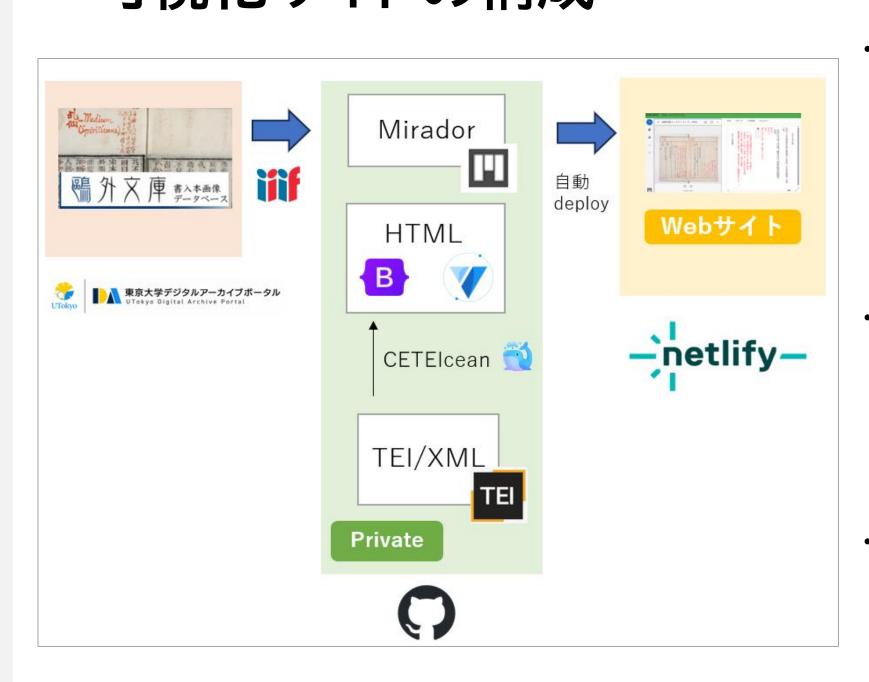


### ◎ 対応するIIIF画像の表示



時間・人物情報の表示も Webサイトのデモへ

# 可視化サイトの構成



可視化サイトの構成

- なるべくミニマムな構成に
- ・HTML、CSS、JavaScriptで 静的サイトを構成
- . TEIやIIIFの技術エコシステム を利活用

#### CETEIcean

- JavaScriptライブラリ
- ・TEI/XMLを読みこみ、HTML 要素として扱える

#### Mirador

- ・IIIFビューワの一つ
- ・東大図書館で公開されている 『抽斎年譜』IIIFManifestの ManifestURIを渡すと画像を 表示

#### まとめ

- 構造化・可視化の方法を共有する意義
  - ✔ 諸本や原拠本を参照し、対応箇所を比較する過程は文献を扱う研究の基礎
  - ✔ エコシステムへの貢献:本発表の取組みでも先行事例を参考に機能を実装
- 図書館所蔵資料の利活用促進:研究に資するデータを提供するために
  - ✓ どのような情報(見た目/意味)をどの深度(Level1~5注4)までマークアップするか? 資料の性格や利用者のリサーチクエスチョンによって記述したい情報は異なる
  - ✔ 内容に踏み込んだマークアップには専門知識とコストが必要
  - ✔ 欧米/日本における図書館員と人文情報学との関わり方



プロジェクトの規模